

1 ○ 水痘ワクチンについて（案）

2

3 （1）疾病の影響等について

4 水痘は、水痘・帯状疱疹ウイルスの感染により引き起こされる小児に好発する
5 感染性疾患であり、感染力が非常に強く、毎年約 100 万人の患者が発生し、4,000
6 人程度が重症化により入院し、20 人程度が死亡していると推計される。重症例は、
7 小児では合併症によるものが多く、成人では水痘そのものによるものが多い。

8 また、妊婦が妊娠初期に感染すると、胎児・新生児に重篤な障害を残す先天性
9 水痘症候群をおこす可能性（発生頻度 2%）がある。

10

11 （2）ワクチンの効果等について

12 水痘ワクチン接種による抗体陽転率は約 90%と良好であり、本ワクチンの有効
13 性については、様々な報告があるが、水痘罹患の防止を基準とすると 80~85%程
14 度であり、重症化防止を基準とすると 100%とされている。また、水痘ワクチン
15 の定期接種導入に伴い、水痘関連の劇症型 A 群溶連菌感染症や、水痘関連入院症
16 例数、死亡率が減少したことが米国において明らかになっている。さらに、集団
17 免疫効果により、全年齢層での水痘患者数の減少、とくに 1~4 歳の水痘患児が
18 入院例も含め著明に減少したことが明らかになっている。なお、水痘・帯状疱疹
19 ウイルスの感染後、脊髄後根神経節にウイルスが潜伏感染し、免疫機能の低下等
20 により再活性化し、帯状疱疹を発症し、生活の質（QOL）を大きく損なうことが
21 問題となっている。本ワクチンは、帯状疱疹の患者数の減少や重症化の軽減も期
22 待される。

23 また、安全性について、ステロイド治療を受けているネフローゼ症候群や白血
24 病の患児等の水痘感染を防ぐ目的で当初開発された経緯からも十分に考慮され
25 ており、ワクチン接種に伴う健常者の副反応は極めて稀であると考えられる。

26

27 （3）医療経済的な評価について

28 医療経済的な評価については、わが国において支払者の視点（保健医療費のみ
29 を考慮）で費用効果分析を行った場合、2 回接種で増分費用効果比（ICER）は 1
30 QALY 獲得あたり約 2,387 万円となり、費用対効果は高くないと判断された。一方、
31 社会の視点（保健医療費と生産性損失等を考慮）で費用比較分析を行った場合、
32 ワクチン接種にかかる費用よりもワクチン接種によって削減できる医療費等が
33 上回り、ワクチン接種導入により約 332 億円の費用低減が期待できるとの結果が
34 得られた。

35 感度分析を行ったところ、社会の視点で行った費用比較分析において、ワクチ

1 ン接種費用（5,000、8,694、10,000 円）、割引率（0-5%）、接種回数（1 回、2 回）の
2 いずれの組み合わせにおいても、ワクチン接種によって費用低減が期待できると
3 の結果が得られた。

4 （４）実施する際の課題及び留意点について

5 高い接種率を確保するため、他のワクチンとの接種スケジュールを調整し、接
6 種を受けやすい環境を作ることが重要である。また、ワクチンを接種しても水痘
7 を発症すること（breakthrough 水痘）を可能な限り減少させ、感染拡大を防止す
8 るために、２回接種の実施が望ましい。